

SPECIAL REPORT

平成28年度酪農教育ファーム認証研修会の概要

本会議と酪農教育ファーム推進委員会は、平成28年度酪農教育ファーム認証研修会を札幌（平成29年1月12日～13日）、東京（同1月24日～25日）、大阪（同2月16日～17日）で開催した。3会場では、書類審査を通過した酪農教育ファーム・ファシリテーター候補者が受講生（合計58名）となり、最近の酪農情勢、酪農教育ファーム活動の概要、認証牧場の安全・衛生対策、ファシリテーターの役割などについて学んだ。

1. 最近の酪農をめぐる情勢等の説明

本会議職員が、国内外の生乳需給動向、TPPや日欧EPA交渉の状況、加工原料乳補給金制度の変更内容、酪農乳業界や酪農家の現状、指定団体の役割と指定団体制度改革議論の経過など、最近の酪農をめぐる情勢について説明した。

酪農をめぐる情勢が大きく変化するなか、酪農教育ファーム・ファシリテーターには、「酪農家の仕事や酪農が有する多面的機能などを消費者に発信する」という重要な役割があることを強調した。

また、その成り立ち、活動の目的と仕組み、現状など酪農教育ファーム活動を行う上での基礎的な事項について説明を行った。

2. アイスブレイキング「やぐら鶴」

参加者同士が打ち解け、研修会の場を和ませることを目的にアイスブレイキング「やぐら鶴」を行った。「やぐら鶴」は、宮崎県での口蹄疫発生の際、見知らぬ者同士の急ごしらえのチームの“チーム力”を磨くために考案されたアイスブレイキングの手法である。これにより、コミュニケーションがとりやすい雰囲気と、目的達成に対する積極的な関わりが生まれたとともに、「やぐら鶴」の本来の目的である情報の共有、作業の分担、想定外の事態への対応、リーダーシップとフォロワーシップといったチーム活動に必要なスキルを参加者自らが体感し、学ぶことができた。

3. 認証牧場における安全・衛生基準の講演

(1) 札幌会場

酪農学園大学・獣医学群・獣医学類・獣医細菌学ユニット・講師の村田 亮先生が、安全な酪農体験にするための対応ポイント、動物由来人畜共通感染症への対策、酪農場に特に関係の深い家畜伝染病（口蹄疫等）の予防対策、生乳の衛生的な取り扱い方、手作り体験で共通する注意点等について説明した。講演では、細菌学が専門の講師から、とくに感染症予防について、感染症の成立要因（感染源、伝播経路、感受性宿主）のどれか一つでも無くせば予防できることについて分かりやすい説明がなされた。

受講者から、「私の勤める牧場では、装置を使って生成した電解水で来場者の手指の消毒をしているが、効果はあるのか。また、搾乳体験時の手指の消毒には何を使用するのが最も効果的か」という質問があり、これに対して、「電解水に消毒効果はあるが非常に強いというわけではない。アルコール消毒液と同様に手指が濡れていると効果が薄れるので、しっかりと乾かしてから使えば効果はあると思う。搾乳体験時の消毒は、体験前の消毒にそれほど神経質になる必要はないので、電解水など肌に低刺激なものを使用すればよい。一方、体験後は感染症防止の観点から、アルコールにプラスして、オスバン等の逆性石鹸を使うのがよいのではないかとアドバイスを受けた。



村田先生の講演風景

(2) 東京会場・大阪会場

千葉県農業共済組合連合会・中央家畜診療所・係長の島田^{とある}氏が、安全な酪農体験にするための対応ポイントなど共通のテーマについて講演し、最後に、山羊の胎盤には悪性カタル熱の原因菌がいるため、山羊を飼っている牧場では牛に移らないように分けて飼うことの重要性を強調した。



島田先生の講演風景

4. 「ファシリテーターの役割」を学び合うワークショップ

(1) 札幌会場

NPO法人いぶり自然学校・代表理事の上田^{とある}融氏を講師に迎え、ワークショップを行った。上田氏の自己紹介と講義の後は、参加者同士が意見交換をしながら、「自分はなぜ酪農教育ファーム活動を行うのか」という各々の目的や目標の明確化と、その目的に到達するための体験コンテンツの洗い出しを行った。最後に、参加者全員が、目的に到達する第一歩として、自分は明日（具体的に）何をするかを考え、参加者全員に披露して問題意識の共有を図った。



参加者の皆さん（札幌会場）

(2) 東京会場

株式会社マチトビラ・取締役の石川^{せいた}世太氏を講師に迎え、ワークショップを行った。石川氏の自己紹介と講義、自分の中で大切にしていることや問題意識に気づくための意見交換を行った後、「あらためて、私が酪農教育ファームをするのはなぜだろう？」という自らへの問いかけを通じて、自分が大切にしている価値観を3つ明確化した。最後に、今日の時間を経て次に自分がやろうと思うことを具体的に書き出し、参加者全員に披露した。



参加者の皆さん（東京会場）

(3) 大阪会場

fence worksの橋本仁美氏を講師に迎え、ワークショップを行った。橋本氏の自己紹介と講義の後は、グループに分かれて意見交換をしながら、酪農教育ファームの目的（酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する）に到達するための具体的な目標を定め、体験メニューを洗い出すことで自らの体験プログラムを具現化した。最後には、本日設定した目標に到達するための第一歩として、明日自分は何をするかを具体的に決め、参加者全員に披露した。



参加者の皆さん（大阪会場）